

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990900066		
法人名	社会福祉法人 晋栄福祉会		
事業所名	グループホーム 壱分町ちどり		
所在地	奈良県生駒市壱分町83番2		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	/www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2990900066-00&ServiceCd=320&Type
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和2年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム=ご自宅という事を念頭に置いて、一日のスケジュールはあまり固定はせず自由な時間を多く取りゆったりとした時間の中で生活をして頂ける様心掛けております。法人理念である「DO FOR OTHERS」の元、生活されるご入居者とそのご家族の為に何が出来るかを常に考え、臨機応変で積極的な支援が行なえるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪の社会福祉法人が運営母体であり、隣接地に保育園とサポートハウスを展開している。すぐ近くにスーパーやドラッグストアもあり、日々の散歩や買い物にも便利で行きやすい場所である。施設内の壁には利用者の写真がたくさん貼られ、行事の様子や日々の雰囲気や良く伝わってくる。保育園児との交流や毎月ある行事などが利用者の楽しみになっている。施設内は良く陽が差し込んで明るく、広い廊下の両側に居室、トイレが並んでいて利用者もわかりやすく使いやすい間取りになっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・スタッフルーム内等に掲示・共有を図っている	事業所は、「パーソン・セントアド・ケア」をもとに「利用者にとって何が最良か」「安定・安心した生活」の理念を基に、職員は「楽しく生活してもらう」の実践に励んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域ボランティアによるサロンを開催	毎月ボランティアにより開催される地域サロンでは、利用者がカラオケや挽きたてのコーヒーを楽しんでいる。図書館からの読み聞かせや、ウクレレ演奏のボランティアの訪問をうけたり、保育園で園児とスイカ割りをしたり、生駒市の「花たすき」「ランとも」にも参加するなど地域との交流を活発に行っている。運営推進会議参加の自治会長の計らいで、自治会館に利用者の作品を出展することが出来たが、自治会への入会は叶っていない。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「生駒GH交流会」は継続開催情報交換や待機状況など話したり、見学者にそれぞれの事業所紹介したり協力関係を築いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度計6回の会議を開催ご家族や市職員、地域包括の方に参加して頂き、報告及び意見交換を行なっている	運営推進会議は、コロナウイルス感染予防の影響で2ヶ月に1回の時期はずれたが年6回の開催を実現した。今回は自治会長の参加が叶ったが、家族の参加は減ってきている。会議では事故、行事、今後の予定などの報告が中心となっている。運営推進会議録や外部評価結果を送っているとのことであるが家族への周知が図れていない。	運営推進会議への参加者が固定されており、家族、民生委員、職員への参加の呼びかけの工夫や、議題の設定を工夫するなど会議の活性化に向けての取り組みを期待する。また、家族や職員にも取り組み内容を周知する工夫が望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて情報交換をしている	市担当職員が毎回運営推進会議に出席して情報交換しており、コロナウイルス感染予防の影響で外部評価調査日程の調整など頻りに連絡を取り交わし決定した。地域包括支援センターに事業所が持つ力を地域に還元できる取り組みに参加したいと申し出ているが実現には至っていない。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドはL字柵を活用し、身体拘束を行っていない。一部は自動施錠となっているが、希望時は自由に出入りして頂く。一緒に散歩や洗濯干し、買い物などで外に出ている。	契約書に身体拘束はしないと明記している。職員は身体拘束に関して法人が行う研修や事業所での研修に参加し共有している。玄関やデイサービスの入り口は電子ロックになっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で身体拘束・虐待防止委員会を開催し、委員会主催による研修会に参加・虐待防止に向けて啓発活動を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者で成年後見制度を活用されている制度に関してパンフレットを自由に閲覧できるようにしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、重要事項説明書と契約書の説明を行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に家族様からの要望等を伺う時間を設けている	家族の要望などは来訪時に聴くようにしている。毎年開催する食事会において、職員もゆっくり利用者や家族のお話を聴けるよう今回は、仕出しを利用し、三者の会話が弾み有意義に終えることが出来た。家族から本人の普段の様子を知りたいとの要望があり、家族に見てもらえるように「ちどり写真館」と名付け写真を掲示した。また、健康診断での血液検査の結果も家族に知らせるようになった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度内2回の自己評価を行っている。スタッフ会議を開催、管理者も参加する事で意見等の集約を行なっている。	管理者は業務改善会議や日常の業務のなかで職員の意見を聴き取り、汲み上げ改善に努めている。腰痛に悩む職員の申し出からタオル置き場の整備、コードレス掃除機の導入また、安息のため休憩ブースの設置を進め、働きやすい職場づくりを目指している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度内2回の人事考課を実施労働時間や希望休などには柔軟に対応し、働きやすい職場の構築に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃より現場からの相談を受け、直接指導を行い、毎朝のミーティング時やその都度職員に応じた指導、助言をしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・毎年度1回法人研究発表大会開催・参加し、他部署の取り組みや成果について意見交換を行なっている・生駒GH連絡会の参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人と面談し、生活状況など情報収集し、ご家族からも伺い、スタッフへ事前情報、対応を伝えて入居者が安心して生活できるよう、ケアの提供ができるよう心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談時や入居にあたっての施設として出来る事・出来ない事の説明を行ない、少しでも要望が実現できるようご家族の協力を得ながら検討するようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にプロフィール(生活歴)を記入して頂き、どのような人生を歩まれたか、楽しかったこと、つらかったこと、頑張ったことなどできる限り把握して、本人の不安を取り除けるようケアのヒントとして活用している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活作業の中で、お手伝いして頂ける部分に関しては声掛け・意思確認の元、出来るだけして頂ける様に取り組んでいる		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居契約の際、面会に関しては本人様の不安感の解消の為に特に来て頂きたい旨をお願いしているが、ご家族との関係にも配慮しその都度対応している。運営推進会議にも参加を要請し、出された提案等に対して検討・実施を積極的に進めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人宛のお手紙を2か月に1回発行。お友達の面会に関してもご家族に確認させていただいている。	利用者が出す年賀状や暑中見舞に本人の顔写真を印刷して出すように支援している。また馴染みの友達の訪問や踊りの仲間が着物での来訪もあった。家族の希望で墓参りや葬儀に参列された利用者もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のレクリエーションや行事などを通して仲間意識を高めて頂ける様スタッフが間に入りながらの支援を行っている。サロンなどの際は一つのフロアに集まって一緒にカラオケしたりしている。他のフロアへ行き来してお話することもある。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて状況把握に努め、他事業所の情報等の提供も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時記入して頂くプロフィールを元に、ご本人の思いや希望・意向の確認に活用している入居後もご家族より聞き取り行ない、情報交換に努めている	利用開始時に本人の現在に至るまでのプロフィールや生活歴、家族関係などを聴き取り記録している。利用開始後は、利用者が語った思いや希望を個々の記録に残し、活用するまでには至っていない。	職員は、日々のかかわりの中で利用者の思いや希望に耳を傾けており、理念に掲げている「パーソン・センタード・ケア」を充実させるための情報としてきちんと記録に残し、更に本人の思いを受け止め、介護計画へと繋げる取り組みを期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にプロフィール(生活歴)を記入して頂くようお願いをしている。ご家族のわかる範囲で。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量や水分量、バイタルなど毎朝申し送りを行ない日頃より情報交換を行ないながら情報共有・状況把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフや診療所からの報告、日ごろのバイタル等ケース記録からの情報を元に連携を図り作成を行なっている	月に1回介護計画のモニタリングを行い、家族から要望などを聴き変更が必要な場合は、その都度介護計画の変更を行なっている。ADLを中心に元気を継続してもらうことを大切に計画を作成している。利用者は、積極的に希望を言わないとのことであるが、表情やしぐさから思いをくみ取り笑顔が増えるプラン作成につながれば尚良いと思われる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録する情報集約ボードの活用や介護ソフトによる詳細な記録を元に情報の共有や対応の検討を行なっている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や散歩、理美容など、ご本人、ご家族の意向を伺いながら、可能な範囲で随時対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回地域のボランティアさんによるサロンを開催近隣保育園との交流会も毎月1回開催地域の文化祭に出席生駒市イベントのうちわづくりや生け花づくりの参加など		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前時点でご家族へは主治医の選択について説明。入居してからご家族同席にてご本人と主治医とお話してご意向を伝えていただけることを説明している。採血などの検査結果はご家族へ送付している。	事業所の協力内科医が週1回訪問診療を行い、また隔週で診療の歯科医による診察、虫歯治療、義歯修理があり、歯科衛生士による口腔ケアも行っている。整体鍼灸師にマッサージを受ける方があり、利用者全員に身体が和らぐ体操を教わったことがある。家族と眼科受診を兼ねてドライブに出かける方もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場からの情報を集約し、往診時情報提供行い指示をうけている。他の日でも日常の対応等について随時診療所へ状況報告行い連携に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生駒市立病院を協力医療機関として連携契約を行わない緊急時の受診等の際は病診連携室へ相談を行なっている。退院時は事前に状態確認、今後の対応について担当者、ご家族と一緒にカンファレンスに参加している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、往診医師からの説明等ご家族を交えて話し合いを行なっている	医療処置が伴わない看取り介護を行うことの指針を、利用開始時に本人と家族に説明し、意向を話し合っている。本人が重度化した場合は、医師を交えて終末に向けた話し合いを行い、本人と家族の精神面の関わりを配慮し特に「本人が寂しくならないように気を配り」看取りの支援を行っている。昨年は1名の方の看取りを行った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習は今年度未実施		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施、発報・通報・避難を含めた総合訓練を行なっている	避難訓練は、夜間想定訓練を含み年2回実施し、消防署から借り受けた水消火器を使い利用者も参加して消火訓練も行った。昨年指摘を受け、新たに防災用倉庫を購入し、2日分の飲料水と食料を備蓄している。避難訓練に消防署員の立会いと指導を要請しているが実現していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議の中で接遇に関わる注意点などを話し合い質の向上に努めている	入浴時は必ず同性介助で行っている。居室は鍵がかかるようになっていて、利用者が内側から自由に施錠できるようになっている。トイレ誘導時にはさり気ない言葉かけを行い、日常生活の中での言葉遣いでも「ダメ」という抑制言葉は使わないなど人格の尊重に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつを買いに行きたいや散髪をしたいなど、随時発生する要望に関しては出来る限り現場での調整を行ない実施出来るよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・体操などの時間は固定されているが、それ以外に関しては固定せず、ご入居者のその日のご様子を見ながら自由に過ごして頂けるよう支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参して頂く衣類は、基本自由にご本人がこれまで着てこられた物を持参頂いている日中フロアで過ごされる際も必ず寝間着から普段着に着替えて頂くよう勧めている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は専門の業者から調達。半調理・半湯銭日常の食事以外の行事食などはご入居者からの要望も聞きつつ取り入れている片付けなどはご入居者にも積極的に手伝って頂けるよう声掛けを行っている	食事は、給食事業者が納入する半調理・半湯煎された食材を調理専任の職員がひと手間加え、陶器の器に盛り付け提供している。年に数回職員提案のおやつレクリエーションを催し、利用者と一緒にわらび餅に黄な粉をまぶしたり、ケーキにクリームを塗ったりと調理を楽しんでいる。ノンアルコールビールを楽しむ方もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	仕入れしている食材は福祉施設向けの内容となっており、カロリー・塩分も管理されている同法人の管理栄養士に相談ができる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各フロア月2回歯科往診に来て頂き、口腔ケアや入れ歯の調整などを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を促し、習慣が継続されるよう支援している感覚が曖昧になってきた方でも排泄チェック表を活用し随時声掛け・トイレ誘導に努めている	夜間おむつ対応の方もいるが、ほとんどの利用者は昼間リハビリパンツ着用で、適時にトイレ誘導を行い、トイレでの自然排泄を促す支援に努めている。各階に3ヶ所あるトイレにはファンレストテーブル(前傾姿勢支持テーブル型手すり)を設置し、排泄し易い姿勢が保てるよう配慮している。利用開始以前から頻繁な失禁症状が見られた利用者の居室にポータブルトイレを置くことで失禁が改善し安定につながった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分チェックや規則正しい時間での食事を実施し排泄状況を連携医療機関とも情報共有行い対応を行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は設定されているが、その日ご本人の状態に合わせて、午前・午後や翌日に変更するなど臨機応変な対応を心掛けている	入浴は週2回を基本としているが、本人の希望や状態に合わせていつでも入浴できるよう対応している。入浴を嫌がる方には、タイミングをはかり声かけや家族と一緒にしてもらうなど工夫している。浴槽の湯は一人ごとに入れ替え、毎月1週間を「ゆず湯」やミルク、桃などの入浴剤を入れて「変わり湯週間」と名付け楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れは固定せず、一人ひとりの体調等を様子観察しながら状況に合わせて過ごして頂けるよう心掛けている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の内容に関しては薬情を保管し随時閲覧出来る状態にしているご家族の希望に合わせて、提携薬局と薬剤管理契約を結んで頂き、随時薬局側との連携に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活作業(洗濯物畳み・食器洗い・おやつの買い出し等)随時職員と一緒にしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設前のスーパーなどを活用して、随時買い物に出掛けている	年間の行事予定に毎月外出を取り入れ花見や金魚ミュージアム、道の駅などへ出掛けている。日常的には、近くのスーパーへの買い物や散歩、外食にも出かけている。外出が困難な方には、エントランスへ出て利用者が植えた花を楽しんだり、外気にふれる機会を作っている。管理者は、今後利用者を海遊館や東大阪市役所の展望台にも連れて行きたいという目標を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なかなか自分で管理することは難しい。一緒に買い物に行ったときに、一緒に商品を選ぶ、賞味期限の確認、いくらかを確認、レジと一緒に歩いていくらでおつりがいくらあったねなど日常会話でお話する程度		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したいと希望があった場合は、事務所の電話でしていただいたり、ご親戚からなど電話あれば子機で取り次いだりしている。年賀状、暑中見舞いに一言添えて頂いたり、自分の名前書いたりしてご家族へ送っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	営繕や介護スタッフによる毎日の清掃は徹底している。ご家族が来られた時に、ご様子がわかるように写真をいっぱい展示している。また見学に来られた方も施設の過ごし方がわかるようにしている。作品も飾るようにしている。外に出たくなるように明るいお花を植えたり、ご入居者と一緒にお花を買いに行ったりして飾る。	施設内の真ん中を通るまっすぐな廊下が広くて明るい。その両側に居室と3つのトイレがあり、壁には「ちどり写真館」と名付け、たくさんの利用者の写真が飾られている。季節を感じる飾りつけも利用者と一緒にしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには通常のテーブル以外にソファも設置し落ち着いて過ごして頂けるよう配慮している座席に関しては人間関係も考慮して、随時変更するなど検討を重ねている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの備品(ベッド・床頭台)以外は全て持ち込んで頂き、その際は自宅でご本人が使用されていた物なども持って来て頂くよう入居時をお願いしている転倒リスクのある方はご家族と相談をしながら、随時居室内のレイアウトを検討・変更している	各居室には洗面台、ベッド、床頭台が備えられている。本人が自宅で使い慣れた家具などの持ち込みを推奨し、利用者はお好みのタンスやテレビを持ち込んでいる。ベッドや家具は、利用者に合わせて配置され使い易い部屋作りとなっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの中央にリビングを配置し、各居室から行きやすい範囲でトイレを配置している		